

おかみさん 新春トーク



ための面談を一人一人としました。とてもつらかったです。

「再起不能と言われても、営業再開へのテンションは持ち続けた。」

高橋 いえ。再起

東日本大震災の被害で、緑水亭がリニューアルオープンしたのが7カ月後とお聞きしました。大きな被害だったのですね。

高橋 当館は高台だったということもあり、建物の揺れが尋常ではありませんでした。その揺れで多くの柱が被害を受けました。宴会会場、会議場、コンベンションホールの屋根が波打ち、ある建設業者から「この建物は再起不能」という診断を受けたほどです。

地震が発生した午後2時46分は、すでにチェックインが始まっております。また、露天風呂にもお客さまがいましたが、全員無事に駐車場に避難し、けがをされた人はいませんでした。地震、火事に対する避難訓練は厳しくやっていたので、役に立ちました。



建物は何度か再起不能というところだったので休館にしました。社員を解雇する（とほしませんでした）が、必要な社員と、待機をしてもらう社員に順番を付けました。その告知をする

従業員もいました。再開時には戻ってらつて、ほぼ同じスタッフでスタートしました。

4月の2週目と3週目に大浴場を4日間、解放したのですが、温泉の力を感じました。お客さまがお風呂をこんなに心待ちにしてくれていると思つと、うれしくなりました。落ち込んでいた社長もがぜん、やる気になりました。

「もう商売はできない」と言ってきたんです。4月に入つて早速、ロビーと事務所の改修に入りました。

営業再開できた大きな理由が、温泉が無事だったということです。風呂の再開を目標に「スタッフ全員で頑張ろう!」ということになりました。

従業員は1000人ほどいました。生活ができないなどの理由で、辞めていった

れました。水道が止まっていたので、感染症、食中毒に注意を払いました。発症すると営業停止になるからです。

「避難している多くの町民を支えなくてはいけない」との思いが強かったのも事実で、施設、避難者の両方を考えることが精神的にはギリギリの状態でした。

少しずつ一般の受け入れを始め、震災の年の10月にリニューアルオープンしました。

一南三陸ホテル観洋も大きな被害を受けました。

阿部 当ホテルは2階まで津波が押し寄せ、大きな被害が出ました。震災直後から避難所のになり、約600人の避難者を受け入

れませんでした。水道が止まっていたので、感染症、食中毒に注意を払いました。発症すると営業停止になるからです。

震災から6年9カ月になりますが、当時避難していた男性から毎月、「マリンスパ」(事業所内保育所)に飲み物が届きます。今も縁が続いています。

ホテルのレストランを、震災から1カ月で営業再開したのは、地元の取引先が予想以上に廃業する

震災の年の6月に、海水を真水に変える「淡水化処理システム」を導入し、館内でトイレ、大浴場、部屋の洗面所で水が使えるようになったり、とてもうれしかったです。

という連絡が入り、立ち止まっていたのではないと思つたので、続



◆ 出席者 ◆

鈴木 緑さん (はまなす海洋館)
阿部 憲子さん (南三陸ホテル観洋)
遠藤 和子さん (ホテルニューさか井)
高橋 知子さん (篝火(かがりび)の湯緑水亭)

三陸新報社編集局長 玉谷誠一